健康推進員等による積極的な受診勧奨で受診率50%以上を目指す!!

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会大腸がん部会
鳥取県健康対策協議会大腸がん対策専門委員会

■ 日　時　平成21年８月29日（土）　午後２時30分～午後３時30分
■ 場　所　倉吉交流プラザ「第１研修室」　倉吉市駄経寺町
■ 出席者　25人
岡本健対協会長、古城部会長、宮﨑委員長
秋藤・岡田・尾﨑・音田・金藤・岸・木村・古志・田村・吹野・
藤井・牧野・冨田・八島・山本・吉田・吉中・米川各委員
県健康政策課：下田副主幹、澤田副主幹
健対協事務局：岩垣係長、田中主事

【概要】

・平成20年度は対象者数188,186人、受診者数48,424人で、受診率25.7%で、他の検診と同様に受診者数、受診率ともに減少した。受診率向上対策が急がれる。
・各地区大腸がん注腸読影委員会の読影件数が年々減少傾向にあり、平成18年度に比べ半減している。

挨拶（要旨）

〈岡本会長〉

委員会終了後、古城部会長のお世話で、CFのデモストレーションをして、皆さんに技術習得のための実地研修をして頂きます。皆さん、よろしくお願いします。

〈古城部会長〉

今年度の会議から、第１回目の会議では検診実績が中間報告のため、資料は提出されていません。

本日の講習会は、昨年の秋に、鳥取市において、コロンモデルを使った内視鏡挿入の実地研修があり、好評だったことを受けまして、もう一度行ってみることとしました。今後、継続していった方がいいのではないかと思いますが、何卒よろしくお願いします。

〈宮﨑委員長〉

平成20年度のがん検診受診率結果によると、各がん検診の受診率は全て減少しています。これは、特定健診の影響ではないかと思います。今までは、基本健康診査とセット検診で出来ていたのが、出来なくなった。また、被扶養者のセット検診が出来なくなったことが大きいと思われます。

がん対策推進基本計画では受診率50%以上を目指しているが、目標達成は非常に難しい現状です。がん検診自体が努力義務となり、次第にやらない、やれない検診が出てくるのではないかと危惧しています。欧米の無作為比較試験（RCT）で、大腸がん便潜血検査による死亡率減少効果は証明されているが、受診率は95%以上でのデータです。したがって、受診率を相当上げないと、がん死亡率を下げることは出来ません。受診率向上が一番大切に思います。

報告事項

1．平成20年度各地区大腸がん注腸読影委員会の実施状況について

東部（尾﨑委員）－14回の読影会を行い、29症例を読影した。その結果、異常なし12件、要内視鏡検査16件であった。大腸がん検診従事者講習会を３月26日開催。

中部（音田委員）－１回の読影会を行い、１症例を読影した。その結果、憩室１件であった。大腸がん検診従事者講習会を２月26日開催。

西部（吹野委員）－37回の読影会を行い、131症例を読影した。その結果、異常なし65件、要内視鏡検査38件、その他28件であった。

西部の読影件数が前年度に比べ、かなり減少している。

大腸がん検診従事者講習会を３月、また、胃・大腸がん検診症例検討会を１月29日開催。

各地区とも、年々と読影件数が減少している。平成18年度読影件数330件に対し、平成20年度は161件で半減している。年々と内視鏡検査が増えている。

2．大腸がん撲滅県民フォーラムの開催について：下田県健康政策課がん・生活習慣病担当副主幹

８月１日（土）、とりぎん文化会館「小ホール」において、大腸がん撲滅キャンペーンを展開するブレイブサークル運営委員会と連携し、「大腸がん撲滅県民フォーラム及びパネル展」を開催したところ、約400人の参加があった。

基調講演は米子医療センター臨床研究部長の木村　修先生による「大腸がん検診受診の重要性について」の講演があった。また、俳優の黒沢年雄氏、講師の木村　修氏、日本オストミー協会鳥取県支部「鳥取さざんかの会」会長　谷口　実氏、鳥取県福祉保健部長の磯田教子氏、フリーアナウンサーの原元美紀氏をパネリストに「大腸がんに負けない宣言！～はじめる・続けるがん検診～」をテーマにパネルディスカッションが行われた。

大腸がん一次検診は、鳥取県は１日２個法による便潜血検査であり、簡便で身体的、経済的にも負担が少ない。また、早期発見、早期治療の効果が高いので、大腸がん検診を必ず受診してほしいという話があった。

3．その他

（１）平成20年度検診受診者数、受診率について：澤田県健康政策課がん・生活習慣病担当副主幹

平成20年度対象者数188,186人、受診者数48,424人で、受診率25.7％であった。全市町村で国が示している対象者の算定方法を取り入れられた結果、対象者数が平成19年度より12,819人増加し、受診者数は3,349人の減少、受診率は3.8ポイントの減少であった。他の検診においても、同様な結果であった。特に西部地区の受診者数が約2,000人も減少した。

平成20年度から特定健診が始まり、市町村では特定健診とがん検診のセット検診を計画しているところが多いが、市町村国保以外の住民はがん検診だけを受診することになり、住民への周知不足、また、自己負担額を一部増額したところもあり、受診者数が減少したと思われる。

協議事項

1．平成22年度に向けた大腸がん検診対策の取り組みについて

国はがん対策推進基本計画において、平成23年度をめどに、がん検診受診率50％以上を目標達成としていることが、平成20年度検診受診率25.7％とかなり落ち込んでいる現状で、いかにして受診率を上げていくのか対策が急がれる。

米子市においては、今年度、健康推進員に受診勧奨のパンフレットを対象者に対面で手渡して頂

くようお願いした。

受診率向上のためには、このような健康推進員等による積極的な受診勧奨が必要と思われる。

また、平成21年度のがん検診への交付金が倍増したと聞いているので、自己負担額の無料化をお願いしてはどうかという意見があった。実際、自己負担が無料な町の受診率は高い結果が出ている。

県健康政策課としては、各市町村の取り組み状況を一覧にまとめ、担当者を集めて意見交換を行う予定である。

大腸がん検診従事者講習会

日　時　平成21年８月29日（土）
午後４時～午後５時45分

場　所　倉吉交流プラザ「視聴覚ホール」
倉吉市駄経寺町

出席者　82名
（医師：78名、看護師・保健師：３名、検査技師：１名）

宮﨑博実先生の司会により進行

実地研修

古城治彦鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会大腸がん部会長の司会により、江府町国民健康保険江尾診療所長　武地幹夫先生と鳥取大学医学部附属病院第２内科講師　原田賢一先生を講師にして、コロンモデルを用いた大腸内視鏡挿入法の実地研修があった。

鳥取医学雑誌への投稿論文募集と医学会演題募集について

「鳥取医学雑誌」は、鳥取県医師会が発行する「学術雑誌」で年４回（３月・６月・９月・12月）発行しています。締切日は設けておりません。「受理」となった論文は、発行月に最も近い医学雑誌へ掲載いたします。投稿にあたっては、鳥取医学雑誌に掲載している「投稿規定」をご覧下さい。優秀な論文に対しては、定例総会席上「鳥取医学賞」が贈られます。

また、「興味ある症例」（２頁）への投稿も併せて募集致します。投稿要領は編集委員会へご請求下さい。

会員各位の日常診療の参考となる論文のご投稿をお待ちしております。

本会では、例年春・秋の２回（概ね６月・11月）「医学会」を開催しており、特別講演或いはシンポジウムなどに加えて会員各位の一般演題（研究発表）も募集しています。22年春は「中部地区」秋は「東部地区」の開催予定で、演題の締め切りは、開催の１ヶ月半前としております。詳細については、当該時期に改めてご連絡いたしますが、多数ご応募下さるようお願いいたします。